

プレスリリース

平成18年11月8日
厚生労働省
農林水産省

米国産牛肉の混載事例について

- 1 10月30日、輸入業者から動物検疫所大阪出張所に対して、大阪港に到着した貨物の中に特定危険部位ではないが、米国農務省発行の衛生証明書に記載されていない胸腺（1箱）が含まれていた旨、報告があった。
（注1）胸腺は特定危険部位ではなく、当該品は20ヶ月齢以下の牛に由来するものであり、適格品リストに掲載すれば対日輸出可能な品目である。
（注2）貨物の概要
出荷施設：スイフト社 グリーリー工場
品 目：冷蔵牛肉、冷蔵舌
数 重 量：760箱、約11トン
- 2 動物検疫所大阪出張所においては、当該胸腺を確認するとともに、同時に到着した他の牛肉759箱、約11トンについて、7日までに全箱を開梱し現物検査を行ったところ、問題は発見されなかった。
- 3 上記貨物を含め、当該施設から出荷された貨物については、一旦、輸入手続を保留するとともに、当該事例について、米国側に調査を要請したところ、本日までに、誤って日本向け貨物とともに出荷されたものであり、今後、当該施設において出荷時の貨物の確認を強化する旨説明があった。
- 4 厚生労働省及び農林水産省としては、米国側の対日輸出プログラムの実施状況を検証する期間であることを踏まえ、米国側による詳細な調査と再発防止措置の実施を求めるとともに、現地調査により実施状況を確認することとし、念のため、当面、当該出荷施設からの輸入手続を保留する。

【問い合わせ先】

連絡先：厚生労働省医薬食品局
食品安全部監視安全課
代表：03-5253-1111(内線2455)
直通：03-3595-2337
担当：蟹江

連絡先：農林水産省消費・安全局
動物衛生課
代表：03-3502-8111(内線3202)
直通：03-3502-0767
担当：山口

当資料の農林水産省ホームページ掲載先URL
<http://www.maff.go.jp/www/press/press.html>

プレスリリース

平成18年12月8日

厚生労働省

農林水産省

米国産牛肉の混載事例に関する米国農務省の調査報告書の仮訳の公表について

昨日、米国農務省から提出のあった、米国産牛肉の混載事例についての調査報告書の日本語訳（仮訳）をとりまとめたので、別添のとおり公表します。

また、米国農務省との調整の結果、スイフト社グリーンリー工場の現地調査を12月11日（月）に実施することとしました。

【問い合わせ先】

連絡先：厚生労働省医薬食品局
食品安全部監視安全課

代表：03-5253-1111（内線2455）

直通：03-3595-2337

担当：蟹江

連絡先：農林水産省消費・安全局
動物衛生課

代表：03-3502-8111（内線3202）

直通：03-3502-0767

担当：山口

当資料の農林水産省ホームページ掲載先URL

<http://www.maff.go.jp/www/press/press.html>

対日輸出に関する調査報告書（仮訳）

2006年12月6日

要約

目的

2006年11月、米国農務省(USDA)食品安全検査局(FSIS)のプログラム評価執行検証部(OPEER)は、スイフト社の施設番号969の食肉処理施設からの牛胸腺一箱の不適切な日本向け出荷に関し調査を行った。当該出荷は、USDA 農業販売促進局(AMS)の対日輸出証明(EV)プログラムに適合しないものであった。

調査結果

1. FSIS の調査により、当該工場が、スイフト社の認定された製品リストに反して、牛胸腺の入った20ポンドの箱一箱を日本向けに不適切に出荷したことがわかった。USDA はスイフト社より、混入は内臓製品の仕分けを行う内臓部門で発生した旨の信頼できる説明を受けた。将来、同様の事例が再発しないようにスイフト社は4つの改善措置を提示しており、それらについて USDA は適切であると判断した。
2. 当該工場の輸出用製品のスキャニング手順が、輸出適格品と輸出不適格品の紛れ込みを防ぐため、さらに強化される必要があることが分かった。
3. 当該工場担当の FSIS の検査プログラム担当官(IPP)は EV 研修を受けており、EV プログラム要件について十分理解していたうえ、関連する指令及び通知に則って輸出証明手順を実行している。
4. 特定危険部位の除去は、当該工場の文書化された手順及び FSIS 規則に則っていた。FSIS は、当該工場が、日本向け牛肉の EV プログラムにある特定製品要件に定められているとおり、輸出適格な最終製品から月齢が確認された原料まで十分さかのぼることが出来るものと確認できた。

結論

スイフト社は4つの改善措置を提示しており、それらについて USDA は適切であると判断した。これらの改善措置には、日本向けの出荷が認められていない製品コードを認識した際にシステムの停止を行う在庫管理スキャニングシステムの再プログラミング(FSISにより調査され、確認されたもの)、荷を集める場合は日本向け製品専用の包装ラインに日本向け製品のみを流すこと、出荷部門において、日本向け製品の確認スキャン、手作業でのチェック及びラベルの目視確認を行うこと、が含まれている。FSIS は、当該施設の日本向け製品のための輸出再検査手続きの一環として、これらの改善措置の検証をランダムに行うこととする。FSIS 検査官は、FSIS 指令に従い、これらの改善措置が遵守されていないと判断した場合は輸出証明書に署名しない。

FSIS 及び AMS の査察により、当該工場の枝肉及び日本向けに輸出適格な最終製品の識別要件及び手順は十分なものであり、計画されたとおり実行されていることを確認した。

一箱の20ポンド入り牛胸腺の不適切な出荷を除き、FSIS 及び当該工場は、輸出に関する FSIS 指令及び通知を十分遵守していた。また、当該工場は AMS の EV プログラム要件に従っていた。

目的

この文書の目的は、米国農務省農業販売促進局（AMS）の定めた日本向け輸出証明（EV）プログラムに適合していなかったSwift Beef Company（スイフト社）施設番号969の牛胸腺の入った1箱の積荷に関する事実と改善措置について米国農務省（USDA）食品安全検査局（FSIS）プログラム評価執行審査部（OPEER）遵守調査課及び内部調査員により実施された調査の結果を提示することである。調査は、2006年10月16日のスイフト社による日本向けの不適格な胸腺の出荷に関する事案について、徹底的な審理を行うために実施された。

背景

米国産食肉及び食鳥製品の他国向け輸出は、独立しているが相互に依存した3つの組織の活動によって構築されている。すなわち、米国食肉・食鳥業界、FSIS及びAMSである。

米国食肉・食鳥業界は健康な動物のと畜と、健全で、適切に表示され、適正な食品の提供に関する責任を負っている。米国食品安全基準への適合に加え、業界は輸入国によって課される全ての条件を満たさなければならない。米国からの製品の輸出が米国農務省により認可されることが可能となる以前に、米国食品安全条件及び輸入国の貿易条件の双方に適合しなければならない。

FSISは食肉及び食鳥製品の検査と他国への製品の輸出証明についての責務を負っている。2006年3月1日に公表されたFSIS指令9000.1改訂1「輸出証明」は、これらの責務について詳細な記述を提供している。FSISの規制に関する主要な役割は、食肉及び食鳥製品が適正で、国内及び国際取引における販売に関する全ての米国食品安全基準に適合しているという重要な決定を行うことである。この規制に関する活動は、FSISがUSDAの検査印を貼付する時点で完了する。しかし、FSISの職員が製品の輸出証明書に署名するためには、検査完了後に追加的検証が必要である。

AMSは、輸出認定された施設が輸入国の条件に適合できることを保証するためのEVプログラムの基準を設定する責任を負っている。これらのプログラムはAMSによって有料で認定・監視され、手数料は参加する施設が支払う。

USDA検査印とAMSのEVプログラムの組み合わせにより、輸出向けの米国産食肉及び食鳥製品が、全ての米国食品安全基準および輸入国の貿易条件に適合しているものとして認証されるに足るとの保証が得られる。

AMS輸出証明（EV）プログラム

AMS監査審査遵守（ARC）室は、USDAのEVプログラム下で食肉・食肉製品の適格な供給者として企業を審査・認定する責任を負っている。当該EVプログラムは、個別の国の特定製品要件を概説する。

EVプログラムにより製品を海外に輸出する施設は、まずEV認定の申請を行わなければならない。この申請は、認定されるべき製品及び製品要件に適合するために必要な製造手順を特定する。

EV認定の適格者となるため、施設はUSDAに認定された品質システム評価（QSA）プログラムを実施しなければならない。QSAプログラムは、施設に特定の製品要件に適合する手法及び一貫した品質の製品を提供する能力を顧客に対し保証する機会を提供する。

QSAプログラム認定を得るための条件の一つとして、EV 認定に申請する施設は文書化された品質管理システム (QMS) を提出しなければならない。当該QMSは品質マニュアル、文書化された特定製品要件、文書化されたQMS手続き、全QMS文書の管理手続き、関連する施設の記録の管理手続きを含まなければならない。

更に、QSAプログラム認定を取得する前に、施設は製品の品質に影響を与える作業を行う従業員は適切な教育、研修、技術及び/又は経験に基づいて有能であることを示さなければならない。全ての研修は文書化され、記録が保存されなければならない。

AMSのARC室の職員はEV 認定された供給者に対する定期的な査察を実施する。これらの施設に事前に通告される査察は1会計年度(10月1日から9月30日)当たり最低2回実施される。しかし、以下のいずれかの理由がある場合には、それ以上の頻度で事前通告のある査察が行われることがある：(1) 査察中に多くの重要度が高い又は低い不適合が見つかった場合、(2) 顧客の苦情が継続的な問題の存在を示すものである場合、(3) 顧客、貿易相手国又はその他の財政上の関係者により表明される特定の要求を満たすため、(4) ARC室長により指示された場合。

適格な供給者は、USDA EVプログラムに関するAMSのウェブサイトに掲載される。ある国に関する公式リストに掲載された適格供給者のみが当該国のEVプログラム条件に適合すると認められる製品を供給することができる。適格品は認定されたEVプログラムの下で生産され、施設によって同プログラムの条件に合致していると特定されなければならない。輸出条件に関するFSISライブラリに掲載されている適格品のみが、FSISの輸出証明書の対象となり得る。

日本向け輸出証明プログラム

日本向け輸出証明プログラムは、生鮮/冷凍の牛肉及び牛内臓並びに子牛肉及び子牛内臓は20か月齢以下の牛から生産されたものであることを要求している。

施設は、プログラムの条件、特定製品要件の遵守の証拠及びQMSの効果的な実施の証拠を提供するための記録を作成・維持しなければならない。輸送文書(積荷証券等)は「日本向けEVプログラム条件に適合した製品」という記述がなければならず、製品と製品数量が明確に特定されなければならない。適格施設により製造され日本への輸出証明プログラムの条件に適合していると確認された適格品は、「日本向けEVプログラム条件に適合した製品」と記述されたFSISの輸出証明書を受ける。

調査結果

確定及び初期対応

2006年10月30日、記録上の輸入者は、スイフトビーフ社社員にFSIS輸出証明書MPG-390635によりカバーされる日本向け貨物の中の非適格品である牛胸腺1箱について報告した。

これに対し、スイフト社は、本件に関係した輸入者に対し2006年10月30日及び31日付けの本件に関する2通の書簡を発送した。当該書簡では、スイフト社は問題の原因の仮説をたて、この間違いが将来の積載において起きることを防止する改善措置を提案した。当該書簡において、製品の各箱及びパレット上の製品に対する電子的スキャンの手順における

問題が原因の根源であると特定した。また、経験の浅い従業員が間違った箱（胸腺）を日本向け牛タンのパレット上に載せてしまったという可能性も認めた。将来の誤った出荷を防止するため、スイフト社は自社の内臓製品の出荷手順を変更する予定である。パレット上の各箱が適切な製品コードを持つことを確認するため、各箱を電子的に手持ちのスキヤナーで調べることにしている。

2006年11月1日に、農林水産省(MAFF)と在東京アメリカ大使館が面談した。農林水産省は米国政府職員に、日本に到着した非適格品について伝え、USDAが本件の調査を実施し、報告書を提出することを求めた。

2006年11月1日、FSISのプログラム評価執行審査部(OPEER)のWilliam C. Smith局長補は、スイフト社が2006年10月16日に日本向けに非適格品(20ポンドの「胸腺」)を輸出するとの結果に至った状況について調査を開始した。

2006年11月6日、在東京アメリカ大使館は日本国政府に暫定的な所見を伝達した。

2006年11月8日、日本政府はプレスリリースを行った。プレスリリースは「10月30日、大阪港に到着した貨物の中に1箱の胸腺が含まれていたと動物検疫所に輸入者が報告した。胸腺は特定危険部位ではないが、米国農務省により発行された輸出証明書に記載されていなかった。」としている。当該プレスリリースは「問題の施設からの貨物に対する輸入手続きは、前述の貨物を含め保留される。現時点で、USDAは当該製品は日本向け貨物と誤って出荷され、USDAは出荷時の貨物の確認を強化すると説明している。」とも述べている。

調査結果

スイフト社施設番号969は、コロラド州グリーンリーにある、大規模な畜及び加工施設である。

スイフト社は、日本向けに牛肉製品を輸出するためのEVプログラムの実施及び継続を申請し、AMSより認可されている。スイフト社は、輸出のために日本向けEVプログラムの下でと畜し様々な牛肉及び内臓製品（胸腺は除く）を部分肉加工することを認可されている。スイフト社は、2006年7月27日以降、EVプログラムに基づく食肉製品を31件（約571,802ポンド）輸出していた。

具体的には、2006年10月14日に、スイフト社は、完成された2ページのFSISの様式9060-6（輸出証明書の申請書）を、当該施設の消費者安全検査官（CSI）であるDavid E. Gutierrezに提出することにより、自社の施設の数種類の牛肉及び牛タンを輸出するための輸出証明書を請求した。2006年10月14日付の当該申請書には、牛胸腺は記載していない。申請書のリストに含まれていた牛肉製品は、以下の表の通りである：

【略】

申請書には、全ての製品について、「OSAKA/316723」という出荷印及び「969」という施設番号も記載していた。また、申請書には、「この製品は、日本の輸出証明（EV）プログラムの条件に適合している」という記述もあった。FSISの様式9060-6（輸出証明書の申請書）に署名しているスイフト社の代表者は、出荷部のリスターであるRobert Donlonであった。CSIのGutierrezは、2006年10月14日に申請書に署名した。

スイフト社は、輸出証明書番号MPG-390635の、日本向け輸出用のEV牛肉を、2006年10月3日～6日、9日～13日に製造した。数種類の牛肉及び内臓（牛タン）からなる当該貨物に含まれていた牛の胸腺は、2006年10月10日に製造された。スイフト社は、USDAのEVプログラムの下で生産され、施設ごとの日本向け認可製品リストに掲載されている製品を出荷することのみを認可されている。“牛の胸腺”は、施設番号969からの輸出が可能な製品としてリストには掲載されていなかった。

「Sweetbreads Thymus Gland」という製品は、FSISの様式9060-5（食肉・食鳥輸出衛生証明書）及びFSISの様式2630-12（輸出証明書MPG-390635の続き）には、記載されていなかった。更に、スイフト社の食品安全管理者であるArt Rogersから提供されたオーダー番号316723の積荷目録には、「Sweetbreads Thymus Gland」は当該貨物に含まれる製品としては記載されていない。

AMSは、まだ署名されていない輸出証明書を審査し、2006年10月16日に、当該輸出に関する証明書（Statement of Verification, SOV）を発行した。FSISの輸出証明書であるMPG-390635及びその他の輸出関係書類は、2006年10月16日に、CSIのGutierrezに提出され署名された。（FSISは、SOVを受け取る前に、輸出証明書に署名することはできない。）輸出貨物は、書類に示されているように、数種類の生鮮牛肉製品より構成されていた（760箱、23,966ポンド）。

2006年11月6日、CSIのGutierrezは、宣誓陳述書で、工場側が、EV輸出用の全ての製品に押印したと述べた。CSIのGutierrezはさらに、製品が出荷準備され、押印された後に、工場は、CSIに再検査の準備ができたということを知り、と述べた。CSIのGutierrezによると、「輸出証明書の申請書を受け取り次第、2006年3月1日付のFSIS指令9000.1改訂1及び2006年3月31日付けのFSIS通知19-06中の指示に従った。私は、スイフト&カンパニー社施設番号969が、輸入国向けの輸出を許可されているとしてAMSのEVリストに掲載されているということを確認した。製品が、施設に対し該当する種類の製品の日本向け輸出が許可された日以降にと殺された牛由来であることも確認した。私は、FSISのイントラネットウェブサイトを通じて、輸出申請書に記載されている製品が、EVプログラムの下で日本向け輸出が可能であることを確認した。施設及び輸出申請書に掲載されている製品が認可されたものであるということを確認した後、輸出申請書に申請者の署名があることを確認し、違反がないと判断した。私は輸出印及び輸出証明書MPG-390635を交付し、輸出証明書申請書の原本に署名して施設969に返却した。工場は、製品に押印し、貨物が再検査できる状態にあることを私に報告した。輸出のための貨物の再検査を行う際、再検査のために提示された製品と見比べるために、私はいつも製品コードを紙にメモしている。私は、何らかの違反がないかどうか、製品の約70%を再検査したが、違反は見られなかった。」としている。

FSIS指令9000.1改訂1は、検査プログラム担当者に対し、特に製品が粗悪品または不衛生でないかに注意して、輸出適格であるかどうか官能試験を実施するよう指示している。もし、検査プログラム担当者が、製品の取り扱いや保管を不適切に行った兆候がないとすれば、再検査は必要なく、FSISの様式9060-6の輸出証明書申請書への署名を行い、FSISの様式9060-5の輸出証明書を発行することが出来る。検査プログラム担当者は、出荷カーターの官能検査中に取り扱いや保管が不適切であるとの兆候を発見した場合には、箱またはコンテナの5%を上限に無作為に抽出し、内容の健全性と安全性について検査を行う。

CSIのGutierrezは、2006年10月16日に、輸出書類(FSISの様式9060-5(食肉・食鳥輸出衛生証明書)シリアル番号MPG-390635、FSISの様式2630-12(輸出証明書の続き)MPG-390635、FSISの様式9290-1(日本向け輸出証明書)、FSISの様式2630-9(日本向け牛肉及び内臓輸出のレターヘッド証明書))に署名した。FSISの様式9060-5(食肉・食鳥輸出衛生証明書)シリアル番号MPG-390635中の日付に関する唯一の箇所は、発行日と書かれているが、そこには、2006年10月14日と記されていた。その書類には、署名日の記入箇所はない。

面談メモによると、スイフト本社の食品安全、技術及び認証部長のSherri L. Jenkinsが、AMSからのSOVを2006年10月16日に受理したと語っている。Jenkinsは、スイフト社事務所は、輸出製品が検査されたその日に輸出証明書を完成し日付を入れ、USDA検査官が輸出証明申請書に署名したのは、2006年10月14日であったと述べた。彼女は、また、2006年10月14日は土曜日であったため、輸出証明書を認証しSOVを発行するAMSの事務所が休みであったと述べた。SOVの承認は2006年10月14日には不可能であった。したがって、輸出証明書は承認日である2006年10月16日にAMSに送付された。USDA検査官は2006年10月16日に輸出証明書に署名したというのが、彼女の理解である。

スイフト社の出荷部門の担当者はEV輸出用の製品に混入した牛胸腺の箱に気付いていなかった。スイフト社出荷責任者のPhillip G. Mendozaは、2006年11月3日付面談メモの中で、輸出製品を含む冷蔵及び冷凍製品の出荷を監督するのが彼の責任であると述べている。Mendozaは、それまでずっと用いられていた手順によると、出荷品が準備され、FSIS検査官が輸出証明申請書を承認すると、FSISの検査官は施設に対し輸出証明書と輸出印を交付すると述べた。この時点で、企業の従業員が輸出証明印を含む出荷印の印字を行う。この手順の間、検査担当官はサンプリングを観察し、出荷品の検査を行う。Mendozaによると、以前は、会社はこの手順の間、全ての箱をスキャンするのではなく、パレットの識別番号を手作業でスキャンするのみであった。出荷部門は、間違った製品がパレットに置かれていないことを確認するために全ての箱をスキャンし、人手によりラベルを確認するべきであったが、実施していなかった。Mendozaは、輸出の問題を知らされた後、出荷区域のスキャナーをチェックし、正常に作動していることを確認したと述べた。また、彼は、続いて内臓部門のスキャナーをチェックしたところ、それらが正常に作動していないことがわかったと述べた。

スイフト社が出荷を行った、2006年10月16日の後、AMSは、月齢が確認できる牛から生産された内臓製品および副生物(variety meats)が、追跡可能で、分別され、正しく識別され、と畜時に20か月齢以下の牛由来であったことを確認するために実施した、目的を限定したスイフトの査察の結果を出した。これは、USDA家畜・種子プログラム、ARC室品質システム査察報告「110306最終版」として掲載されている。その「勧告」には、「査察結果に基づき、査察官は、スイフト社(コロラド州グリーリー)が、対日輸出向けの月齢判明牛由来の内臓製品および副生物について認可されることを推奨する。」としている。

品質保証(QA)責任者のScott J. Leachは、11月3日付面談メモの中で、施設は、スキャナーの故障が日本向け牛タンのパレットに胸腺の箱を混入させた原因であると決定したのではないかと述べた。また、工場長のBillie R. Danleyは11月3日付の面談メモの中で、内臓部門のスキャナーが正しく作動していなかったのではないかと述べた。また、2006年10月31日付のスイフト社からの輸入業者あてEmailにおいて、病気であったと言及されている人物について問われて答える形で、Danleyはこの説明は単なる仮説であり、当時病欠

または休暇中であった責任者はいなかったと述べた。

Jenkins及びRogersは、2006年11月3日付共同面談メモの中で、工場は、現状のスキヤナーのプログラムを検証しているところであると述べた。また、内臓用の色つきコードのラベリング（E Vプログラム）も検討されている選択肢の1つであると述べた。

Jenkinsは2006年11月10日の署名入り文書において、「スイフト社のほかの社員が準備した書類を自分が検証したところ、問題の胸腺の箱を含む出荷は、積荷証書（トラック）01 E14028A-0、カリフォルニア州オークランド経由で日本の大阪港に荷揚げされるコンテナ #HJCU6931019、封印#252168の積荷証書（海上輸送）OAKA03359306によりカバーされている。このコンテナは施設969において積載され、カリフォルニア州オークランド経由で日本に向かう前に封印された。」と述べた。

内臓スキャン担当のGlenda L. Perezは、11月13日付面談メモにおいて、問題の胸腺が日本向けに出荷されたその当日何が起こったのか定かではないと述べた。彼女は、スキヤナーには何か問題があるとは気づけなかった。また、管理部門の従業員が、スキヤナーの正確性について点検し、スキヤナーが再プログラミングされたことを承知していると述べた。

スイフトビーフ社から報告された改善措置

スイフト社は4つの改善措置を提示しており、それらについて USDA は適切であると判断した。これらの改善措置には、日本向けの出荷が認められていない製品コードを認識した際にシステムの停止を行う在庫管理スキヤニングシステムの再プログラミング（FSISにより調査され、確認されたもの）、荷を集める場合は日本向け製品専用の包装ラインに日本向け製品のみを流すこと、出荷部門において、日本向け製品の確認スキャン、手作業でのチェック及びラベルの目視確認を行うこと、が含まれている。FSIS は、当該施設の日本向け製品のための輸出再検査手続きの一環として、これらの改善措置の検証をランダムに行うこととする。FSIS 検査官は、FSIS 指令に従い、これらの改善措置が遵守されていないと判断される場合は輸出証明書に署名しない。スイフト社の4つの改善措置は以下に述べるとおりである。

FSISの消費者安全職員（CSO）のBobby Maxwellはスキヤナーを用いた胸腺の包装工程を観察した。彼の観察/報告はスイフトにより講じられたスキャンの工程における改善措置を明らかにしている。

11月10日、CSOのBobby Maxwellは、スイフト&カンパニー社施設番号969の食品安全責任者であるArt Rogersから内臓部門におけるスキャンを行う工程のデモンストラーションによる説明を受けた。CSOのMaxwellは、内臓部門において1箱の胸腺が計量計に向かうコンベアを降りてくるのを観察した。その箱には胸腺が入っており箱の蓋は開けられていたので、計量を行う従業員は製品が何であるかを判断し、スキヤナーに適切なコードを入力することができた。当該コンベア上には胸腺以外の内臓製品もあった。その箱が計量計に達した際、従業員は胸腺の適切なコード（82352）を入力し、その後箱を計量計に乗せた。当該製品は計量され、従業員は計量計からラベルを印字し箱の側面に貼り付けた。その後従業員は箱の蓋を閉じ、完全に箱詰めされラベルの付された胸腺を最初のコンベアと垂直に位置する他のコンベアに送った。

この2番目のコンベアは、このコンベアにも異なる製品が乗っており、パレットに積載する区域に向っていた。1つのパレットに積載する工程で、胸腺の箱はパレットの上に置かれた。パレットへの積載が終了すると、パレット積載区域の従業員はパレットの上段にある箱の一つにパレット用のバーコードステッカーを貼った。この従業員はそのバーコードをスキャンし、スキャナーをプログラミングした。当該スキャナーはシンボルの68XXシリーズモデルの手持ち携帯スキャナーであった。スキャナーがプログラミングされると、従業員はパレット上の胸腺の箱をスキャンした。Art Rogersによると、胸腺の最初の箱がスキャンされると、スキャンされた最初の箱と同じコードを持つ当該パレット上の他の箱をスキャナーが認識するようにセットされ、胸腺のコード以外のコードを有する箱がスキャンされると、これらは拒絶されるとのことであった。

CSOのMaxwellはデモンストレーションを求め、Art Rogersは1箱のタンを胸腺のパレットに載せ、従業員に当該箱をスキャンするよう指示した。当該箱がスキャンされた際、スキャナーはロックされ、スキャナーの画面上に「パレット上に混載された製品があり、次に進んではならない」どのメッセージを表示した。この時点で従業員はスキャナーを再プログラミングし、パレットのバーコードから始めるところからパレットの全箱のスキャンをやり直すことを余儀なくされた。

Mendozaは2006年11月3日付の面談メモにおいて、会社は以下の改善措置を講ずることを言明した。

- ・内臓部門および出荷部門双方でパレット上の全ての箱は、日本への出荷に先立ち確認のためにスキャンされる。
- ・内臓部門の監督者は製品の数を手作業で数え、日本向け製品のラベルを目視で確認する。
- ・出荷部門の積荷目録記録は、適切なシリアル番号を確認し照合される。
- ・箱の100%についてラベルおよび箱の数が適正であることを証明するもの（今後決定）の承認を行う。

施設の工場長であるBillie R. Danleyは2006年11月3日付けの面談メモにおいて、彼らが今般講じている安全措置は、荷を集める場合に、包装ライン上には、日本向けに製造された製品のみ流すことであると述べた。彼らはまた、全ての箱を個々に手でスキャンし、出荷に先立ち実際に人が製品の箱数を数える。

スイフト社の輸出、方針および手順に関するQSAプログラムの直近の2006年10月31日付け改正版23ページによれば、「月齢証明牛がと畜される日は、内臓部門はシフトの開始時において、指定された内臓を保管することができる。月齢証明ロット内の牛の頭数は、と畜のQAと製造部門に無線と操業カードの双方を通じて連絡される。非月齢証明牛ロットの開始は同様に連絡される。と畜のQAは月齢証明牛の最後の一頭の後を、と畜フロアの内臓取出テーブルまでついていく。その時点で、と畜QAは内臓部門QAに無線で最後の月齢証明牛が内臓テーブルに到着したことを連絡する。この時点で、日本向け輸出用に指定された内臓製品の製造中止が行われる。この時点で分別または識別されていない全ての残りの内臓製品は一般製品に「格下げ」される。(月齢証明内臓分別手順)」

Japan Export Inquiry Report

December 6, 2006

EXECUTIVE SUMMARY

PURPOSE

The United States Department of Agriculture's (USDA's) Food Safety and Inspection Service (FSIS), Office of Program Evaluation, Enforcement and Review (OPEER), conducted an inquiry in November 2006, regarding the inappropriate shipment to Japan of one box of beef sweetbreads by Swift Establishment 969. The shipment did not comply with USDA's Agricultural Marketing Service (AMS) Export Verification (EV) Program for Japan.

FINDINGS

1. The FSIS inquiry determined that Swift Establishment 969 inappropriately shipped one 20-pound box of beef sweetbreads to Japan contrary to the Swift approved product list. USDA has received Swift's plausible explanation that commingling occurred in the offal department where sorting of offal products were taking place. In order to mitigate the chance of future recurrence of similar incidents, Swift has proposed 4 corrective actions that USDA has determined as adequate.
2. FSIS found that Swift Establishment 969's procedures for scanning products for export require further strengthening to prevent the commingling of approved and unapproved products.
3. FSIS Inspection Program Personnel (IPP) at this facility have received EV training and a good understanding of the EV Program requirements and are implementing export verification procedures in accordance with the relevant directives and notices.
4. Removal of Specific Risk Materials was in accordance with Swift Establishment 969's written procedures and FSIS regulations. FSIS was able to verify that this establishment could satisfactorily trace finished approved products back to age-verified sources as required by the Specified Product Requirements under the EV Program for beef to Japan.

CONCLUSIONS

Swift has proposed 4 corrective actions that USDA has determined as adequate. They include reprogramming scanning software to lock-up the inventory scanning system (observed and verified by FSIS) when unauthorized product codes for shipment to Japan are identified, to only run product assembled for Japan on a dedicated packaging line when the load is put together, and to perform verification scans as well as manual audits and visual label verification in shipping for product to be exported to Japan. FSIS will verify these corrective actions components on a random basis as part of its export re-inspection procedures for products prepared for Japan at this facility. FSIS inspection personnel will follow FSIS Directives including not signing the export certificate when they determine these corrective action procedures are not being followed.

Both FSIS and AMS audits have verified that Swift Establishment 969 identification requirements and procedures for carcasses and approved finished products destined to Japan are satisfactory and implemented as designed.

With the exception of the inappropriate shipment of one 20-pound box of beef sweetbreads, FSIS and Swift were satisfactorily following the FSIS Directive and Notices for exports. Additionally, Swift Establishment 969 complied with the AMS EV program requirements.

Japan Export Inquiry Report

PURPOSE

The purpose of this document is to provide the results of the inquiry conducted by the United States Department of Agriculture's (USDA's) Food Safety and Inspection Service (FSIS), Office of Program Evaluation, Enforcement and Review (OPEER), Compliance and Investigations Division and Internal Control Staff which document the facts and proposed corrective actions surrounding the shipment of one box of beef sweetbreads by Swift Beef Company (Swift), Establishment (Est.) 969, 800 N. 8th Avenue, Greeley, Colorado, 80631, to Japan which did not comply with USDA's Agricultural Marketing Service (AMS) Export Verification (EV) Program for Japan. The inquiry was undertaken to provide a thorough examination of the events surrounding the October 16, 2006, ineligible shipment of sweetbreads by Swift to Japan.

BACKGROUND

The export of U.S. meat and poultry products to other countries is facilitated by the activities of three separate but interdependent entities: the U.S. meat and poultry industry, the USDA Food Safety and Inspection Service (FSIS), and the USDA Agricultural Marketing Service (AMS).

The U.S. meat and poultry industry is responsible for the slaughter of healthy animals and preparation of food products that are wholesome, properly labeled, and not adulterated. In addition to meeting U.S. food safety standards, the industry must meet all requirements imposed by importing countries. Both U.S. food safety requirements and the trade requirements of importing countries must be met before a product can be certified by USDA for export from the United States.

FSIS is responsible for the inspection of meat and poultry products and the certification of products for export to other countries. FSIS Directive 9000.1, Revision 1, "Export Certification," published March 1, 2006, provides an in-depth description of these responsibilities. The primary regulatory role of FSIS is to make critical determinations that meat and poultry products are not adulterated and meet all U.S. food safety standards for sale in domestic or international commerce. This regulatory activity is complete when FSIS applies the USDA mark of inspection. However, additional verifications are necessary after inspection is complete in order for FSIS officials to execute certifications of product for export.

AMS is responsible for developing EV Programs standards to ensure that establishments certified for export can meet the requirements of importing countries. These programs are approved and monitored by AMS for a fee which is paid by participating establishments.

The combination of a USDA mark of inspection and an AMS EV program provide assurance that U.S. meat and poultry products offered for export may be certified as meeting all U.S. food safety standards and importing country trade requirements.

AMS Export Verification (EV) Program

The AMS Audit, Review, and Compliance (ARC) Branch is responsible for reviewing and approving companies as eligible suppliers of meat and meat products under the USDA Export Verification (EV) Programs. The EV Programs outline the specified product requirements for individual countries.

Establishments that export product to countries with EV Programs must first apply for EV certification. This application identifies the products to be certified and the production practices necessary to meet that requirement.

In order to be eligible for EV certification, establishments must have in place an approved USDA Quality System Assessment (QSA) Program. The QSA Program provides establishments with a method to meet specified product requirements and the opportunity to assure customers of their ability to provide consistent quality products.

Japan Export Inquiry Report

As one of the requirements for getting a QSA Program approved, establishments applying for EV certification must submit a documented quality management system (QMS). The QMS must include a quality manual, documented specified product requirements, documented QMS procedures, procedures for the control of all QMS documents, and procedures for controlling related establishment records.

In addition, before getting QSA Program approval, the establishment must demonstrate that personnel performing work affecting product quality are competent on the basis of appropriate education, training, skills, and/or experience. All training must be documented and records maintained.

AMS ARC Branch personnel conduct regular audits of EV certified suppliers. These announced audits are conducted at least twice per fiscal year (October 1 to September 30). However, more frequent announced audits may be conducted for any of the following reasons: (1) if either numerous major or minor non-conformances are identified during an audit; (2) if customer complaints indicate an ongoing problem; (3) to satisfy specific requests as declared by customers, trading partners, or other financially interested parties; or (4) as directed by the ARC Branch Chief.

Eligible suppliers are posted on the AMS website for the USDA EV Programs. Only eligible suppliers listed in the Official Listing for a country may supply product identified as meeting the requirements of that country's EV Program. Eligible product must be produced under an approved EV Program and be identified by the establishment as meeting the requirements of the EV Program. Only eligible products may be issued a FSIS Export certificate as listed in the FSIS Library of Export Requirements.

Export Verification Program for Japan

The EV Program for Japan mandates that fresh/frozen beef and beef offal and veal and veal offal are derived from animals 20 months of age or younger.

The establishment must establish and maintain records to provide evidence of conformity to program requirements, to specify product requirements, and to provide evidence of the effective operation of the QMS. Shipping documentation (bills of lading, etc.) must have the statement "Product Meets EV Program Requirements for Japan" and must clearly identify the product and product quantity. Eligible products produced by eligible establishments and identified as meeting the requirements of the EV Program for Japan shall receive a FSIS Export Certificate with the statement "Product Meets EV Program Requirements for Japan."

RESULTS OF INQUIRY

Predication and Initial Response

On October 30, 2006, the Importer of Record notified Swift Establishment 969 officials of one box of ineligible beef sweetbreads in a shipment of product to Japan covered by FSIS Export Certificate MPG-390635.

In response Swift Establishment 969 issued two letters dated October 30 and 31, 2006, to the importer pertaining to this incident. In the letters, Swift Establishment 969 management hypothesized the cause of the problem and presented corrective measures to prevent this error from happening on future loads. The letters identified the root cause as a problem with the electronic scanning procedure for each box and pallet of product. It was also determined that an untrained employee might have placed the wrong box (beef sweetbreads) on the pallet of beef tongues designed for export to Japan. To prevent future mishaps, Swift Establishment 969 will be altering their shipping procedures for offal products. Each box will be electronically hand-scanned to confirm that each box on a pallet bears the appropriate product code.

Japan Export Inquiry Report

On November 1, 2006, Ministry of Agriculture Forestry and Fisheries (MAFF) met with officials at the US Embassy, Tokyo. MAFF informed American officials of the ineligible product that had been received in Japan and requested USDA conduct an investigation and provide a report on the incident.

On November 1, 2006, William C. Smith, Assistant Administrator, FSIS Office of Program Evaluation, Enforcement, and Review (OPEER), initiated an investigation into circumstances that resulted in Swift Establishment 969 exporting ineligible product (20 lbs. of "Sweetbread Thymus Gland") to Japan on October 16, 2006.

On November 6, 2006, U.S. Embassy, Tokyo provided interim findings to the Government of Japan (GOJ).

On November 8, 2006, the GOJ issued a press release. The press release revealed that, "On October 30, an importer informed the Animal Health Quarantine Office that one box of thymus gland was contained in the shipment that arrived at the port of Osaka. Thymus gland is not an SRM, but was not listed on the Export Certificate issued by the USDA." The press release also stated, "Import procedures for shipments from the concerned establishment will be temporarily deferred including the above shipment. Thus far, the USDA has explained that the product was shipped mistakenly with the Japan bound shipment and that it will strengthen its confirmation upon ship-out."

Facts from Inquiry

Swift Establishment 969 is a large slaughter/fabrication facility located at 800 North 8th Avenue, Greeley, Colorado, 80631.

Swift Establishment 969 requested and was approved by AMS to implement and maintain an EV program for the exportation of beef products to the country of Japan. Swift Establishment 969 was approved to slaughter and fabricate various beef cuts and offal products (excluding sweetbreads) for export under the EV Program to the country of Japan. Swift Beef Company, Establishment 969 has exported 31 shipments of EV meat product (approximately 571,802 pounds) to Japan since July 27, 2006.

Specifically, on October 14, 2006, Swift Establishment 969 requested certification to export assorted beef cuts and tongues at their facility by providing Consumer Safety Inspector (CSI) David E. Gutierrez with a completed two page FSIS Form 9060-6 (Application for Export Certificate). The application, which was dated October 14, 2006, does not list beef sweetbreads. Beef products, as they are listed on the application, are as follows:

58519	<i>Bnl. Beef Rib Finger Meat</i>	183.40 lbs.	4 pkgs.
58470	<i>USDA CH Bnls BF c/s Skirt Diaphragm meat</i>	1,929.70 lbs.	58 pkgs.
58970	<i>Bnls BF o/s Skirt Diaphragm meat</i>	839.90 lbs.	27 pkgs.
58440	<i>USDA Cho Bnls BF Hanging Tender</i>	1,765.90 lbs.	43 pkgs.
58940	<i>Bnls Bf Hanging Tender</i>	974.50 lbs.	25 pkgs.
82422	<i>Beef Tongues (vac)</i>	1,462.4 lbs.	102 pkgs.
82426	<i>Beef Tongues #2 (vac)</i>	198.9 lbs.	14 pkgs.
58351	<i>USDA Cho Bnls Bottom Sirloin Butt Beef Flap Meat</i>	1,342.10 lbs.	36 pkgs.
58165	<i>USDA CH BB Chuck Eye Roll H/O S/T</i>	3,636.50 lbs.	99 pkgs.
58168	<i>USDA CH BB Chuck Eye Roll H/O S/T (AGV)</i>	3,804.90 lbs.	94 pkgs.
58410	<i>USDA CH Bnls BF Chuck Short Rib</i>	1,780.40 lbs.	60 pkgs.
58910	<i>Bnls BF Chuck Short Rib</i>	661.40 lbs.	24 pkgs.
58163	<i>USDA Cho Bnls Beef Chuck Flap</i>	1,987.90 lbs.	75 pkgs.
58223	<i>USDA Cho Bnls Beef Short Ribs</i>	1,631.00 lbs.	60 pkgs.

Japan Export Inquiry Report

58119	USDA Cho Bnl Beef Rib Finger Meat	1,767.10 lbs.	39 pkgs.
-------	-----------------------------------	---------------	----------

The Application also listed the shipping marks of "OSAKA/316723" and Establishment Number "969" for all products. The Application also has the statement "This product meets export verification (EV) program requirements Japan". The Swift Establishment 969 company representative signing the FSIS Form 9060-6 (Application for Export Certificate) was Robert Donlon, Lister, Shipping Department. CSI Gutierrez signed the application on October 14, 2006.

Swift Establishment 969 manufactured EV beef product for export to Japan from October 3-6 and October 9-13, 2006, for Export Certificate Number MPG-390635. The beef sweetbreads included in this shipment of assorted beef cuts and offal (beef tongues) were manufactured on October 10, 2006. Swift Establishment 969 is only authorized to ship products produced under the USDA EV program and that are listed on the establishments approved product list for Japan. "Beef Sweetbreads" was not listed as an eligible product for export to Japan from Est. 969.

The product "Sweetbreads Thymus Gland" was not listed on the FSIS Form 9060-5 (Meat and Poultry Export Certificate of Wholesomeness) and FSIS Form 2630-12 (Continuation Sheet for Export Certificate MPG-390635). In addition, shipping manifest records for Order # 316723, supplied by Art Rogers, Swift Food Safety Manager, do not list "Sweetbreads Thymus Gland" as product contained in the shipment.

AMS reviewed the unsigned export certificate and issued a Statement of Verification (SOV) for the export on October 16, 2006. FSIS Export Certificate, MPG-390635, and other export forms, were presented to and signed by CSI Gutierrez on October 16, 2006. (FSIS is unable to sign export certificate prior to the receipt of the SOV.) The export load, as indicated by the paperwork, consisted of assorted fresh beef products (760 boxes, 23,966 pounds).

On November 6, 2006, CSI Gutierrez stated in a sworn statement, that the plant stamped all products destined for the EV export. CSI Gutierrez further stated that once the product was staged and stamped, the plant notified the CSI the product was ready for re-inspection. According to CSI Gutierrez, *"Upon receipt of the application for export certificate, I followed the instructions in FSIS Directive 9000.1, Rev. 1, dated March 1, 2006 and FSIS Notice 19-06, dated March 31, 2006. I verified that Swift & Company, Est. 969 was on the AMS EV list as approved to export to the importing country. The products were verified to be derived from animals slaughtered after the date the establishment received approval to export that type of product to Japan. I verified that the products listed on the application for export were eligible for export to Japan under the EV program via the FSIS intranet website. After I determined that the establishment was approved and the products listed on the application for export were approved, I verified that the applicant's signature was on the application for export certificate and determined that there were no irregularities. I issued the export stamp and export certificate MPG-390635, signed and returned the original application for export certificate to Est. 969. The plant stamped the product and notified me that the shipment was ready for re-inspection. When I re-inspect shipments for export I always make a note of the product codes on a piece of paper to compare them with the products being presented for my re-inspection. I re-inspected approximately 70% of the product for any irregularities and none were observed."*

FSIS Directive 9000.1, Revision 1, directs inspection program personnel to perform a sensory evaluation of the product to determine its eligibility for export, being particularly alert for signs that product is or may become adulterated or unwholesome. If inspection program personnel find no signs of poor product handling or storage, re-inspection is not required, and inspection program personnel can proceed with signing FSIS Form 9060-6, Application for Export Certificate, and issuing the FSIS Form 9060-5, Export Certificate. If inspection program personnel do find signs of poor product handling or storage while

Japan Export Inquiry Report

conducting the organoleptic examination of the shipping cartons, they are to randomly select up to 5-percent of the boxes or containers and inspect the contents for soundness and wholesomeness.

CSI Gutierrez signed the export documentation: FSIS Form 9060-5 (Meat and Poultry Export Certificate of Wholesomeness), Serial Number MPG-390635, FSIS Form 2630-12 (Continuation Sheet for Export Certificate) MPG # 390635, FSIS Form 9290-1 (Certificate for Export to Japan), and FSIS Form 2630-9 (Letterhead Certificate for Export of Beef and Beef Offal to Japan) on October 16, 2006. The only block on FSIS Form 9060-5 (Meat and Poultry Export Certificate of Wholesomeness), Serial Number MPG-390635 for a date is labeled "Date Issued" which shows a date of October 14, 2006. The form does not have a "Date Signed" block.

In a Memorandum of Interview, Sherri L. Jenkins, Swift Corporate Director of Food Safety, Technology, and Validation, advised that the SOV was received from AMS on October 16, 2006. Ms. Jenkins stated that the office at Swift Establishment 969 completed and dated the export certificate the same day the export was presented for inspection and the application was signed by the USDA inspector on October 14, 2006. She also stated that since October 14, 2006, was on Saturday, the AMS office that approves the export certificate and issues the SOV was not open. The SOV approval could not have been issued on October 14, 2006. Subsequently, the export certificate was sent to AMS on October 16, 2006, at which time it was approved. It is her understanding that the USDA inspector signed the export certificate on October 16, 2006.

Swift Establishment 969 personnel in the shipping department did not catch the box of beef sweetbreads mixed in with the products destined for the EV export. Phillip G. Mendoza, Swift Shipping Manager, in a Memorandum of Interview dated November 3, 2006, advised that his responsibility is overseeing the shipment of fresh and frozen products, including exported products. Mr. Mendoza stated that according to procedures that have always been in place, once a shipment has been staged and the FSIS inspector has approved the application for export, the FSIS inspector provides the plant with an export certificate and the export stamp. At this time company personnel apply shipping marks, including the export certification stamp. During this step, the inspection personnel observe the sampling and inspect the shipment. According to Mr. Mendoza, during this step, in the past, the company did not scan every box, but only hand-scanned the pallet identification. The shipping department should have been hand-scanning every box and manually looking at labels to determine if the wrong product was placed on a pallet, but were not. Mr. Mendoza advised that once he was notified of the export problem, the scanners were checked in the shipping area and found to be working properly. He also stated that the scanners in the offal department were subsequently checked and it was determined they were not functioning properly.

Subsequent to the October 16, 2006, shipment by Swift Establishment 969, AMS issued results of a limited scope audit at Swift to verify that offal products and variety meats saved from known aged cattle were traceable, segregated, and had proper identification, which were derived from cattle that were 20 months of age or younger at the time of slaughter. This is documented on USDA, Livestock and Seed Program, Audit, Review, and Compliance Branch Quality System Audit Report listing "Final 11 03 06". The "Recommendations" listed: "Based on the audit findings, the auditor recommends that Swift (Greeley, CO) be approved for offal products and variety meats, as stated above, from known aged cattle for export to Japan."

Mr. Scott J. Leach, QA Manager, in a Memorandum of Interview, dated November 3, 2006, hypothesized that the firm determined that a scanning equipment failure caused the box of beef sweetbreads to be included in the pallet of beef tongues exported to Japan. In addition, Billie R. Danley, General Plant Manager, in a Memorandum of Interview, dated November 3, 2006, hypothesized that the scanner in offal may not have been operating properly. Also, in response to being questioned about an individual referenced in Swift's October 31, 2006, e-mail to the importer of record, being sick, Mr. Danley stated

Japan Export Inquiry Report

that this explanation was only meant to be a theory and that no responsible person was found to have been sick or off during that time.

Ms. Jenkins and Mr. Rogers, in a combined Memorandum of Interview, dated November 3, 2006, advised that the plant is examining the programming issues with the scanners at present. In addition, color coding labels for offal products (EV Program) is also an option that is being researched.

Ms. Jenkins stated in a signed statement on November 10, 2006, "*Based on my review of documentation prepared by others at Swift, the shipment containing the box of beef sweetbreads in questions is covered under transportation (truck) Bill of Laden 01E14028A-0 and bill of laden (ocean transportation) OAKA03359306, via Oakland, California port of discharge Osaka, Japan container # HJCU6931019, Seal # 252168. The container was filled at our Est. 969 facility and sealed prior to being shipped to Oakland, California and onto the country of Japan.*"

Glenda L. Perez, Offal Scanner, in a Memorandum of Interview, dated November 13, 2006, advised she was not sure what occurred on the day the box of beef sweetbreads was shipped to Japan. She was not aware anything was wrong with the scanner. She advised that she knows that management officials have been testing the scanner for accuracy and know the scanner has been reprogrammed.

Corrective Actions Reported by Swift Beef Company

Swift has proposed 4 corrective actions that USDA has determined as adequate. They include reprogramming scanning software to lock-up the inventory scanning system (observed and verified by FSIS) when unauthorized product codes for shipment to Japan are identified, to only run product assembled for Japan on a dedicated packaging line when the load is put together, and to perform verification scans as well as manual audits and visual label verification in shipping for product to be exported to Japan. FSIS will verify these corrective actions components on a random basis as part of its export re-inspection procedures for products prepared for Japan at this facility. FSIS inspection personnel will follow FSIS Directives including not signing the export certificate when they determine these corrective action procedures are not being followed. Each of these 4 specific actions is addressed below.

FSIS Consumer Safety Officer (CSO) Bobby Maxwell observed the process of packaging of sweetbreads using the scanner. His observations/report revealed the corrective actions taken by Swift Establishment 969 on the scanning process:

On November 10, 2006, CSO Maxwell was given a demonstration by Art Rogers, Food Safety Manager, Swift & Company, Est. 969 of the scanning process in the offal department. CSO Maxwell observed a box of sweetbreads as it came down the conveyor towards the scale in the offal department. The box was filled with sweetbreads and the top of the box was off so that the employee at the scale could determine what the product was and enter the appropriate code into the scanner. This conveyor had other offal products other than the sweetbreads on it. When the box arrived at the scale, the employee entered the appropriate code for sweetbreads (82352) and then slid the box onto the scale. The product was weighed and the employee printed the label from the scale and placed it on the side of the box. The employee then placed the top on the box and slid the box of sweetbreads, which was fully boxed and labeled, onto another conveyor perpendicular to the first conveyor.

This second conveyor, which also had different products on it, went to the palletizing area. At palletizing, the box of sweetbreads was placed onto a pallet. Once a pallet was completed, the employee in palletizing placed a pallet bar code sticker onto one of the boxes on top of the pallet. The employee scanned the bar code and programmed the scanner. The scanner was a Symbol,

Japan Export Inquiry Report

model 68XX series hand-held portable scanner. Once the scanner was programmed, the employee scanned a box of sweetbreads on the pallet. According to Art Rogers, once the first box of sweetbreads was scanned, this will set the scanner to recognize additional boxes on this pallet with the same code as the first box scanned and if any box with codes other than the sweetbread code were scanned, they would be rejected.

CSO Maxwell requested a demonstration and Art Rogers placed a box of tongues onto the pallet of Sweetbreads and instructed to the employee to scan the box. When the box was scanned, the scanner locked-up and the following message was displayed on the screen of the scanner, "No mixed product allowed on pallet, exiting pallet build, enter to continue". At this point the employee reprogrammed the scanner and was forced to start scanning the pallet entirely over beginning with the pallet bar code.

Mr. Mendoza, in a Memorandum of Interview, dated November 3, 2006, declared that the firm is instituting the following corrective actions:

- Each box of product on pallets in both offal and shipping will be scanned for accuracy prior to shipment to Japan.
- The Offal supervisor will manually count and visually verify labels on product destined to Japan.
- The shipping manifest records will be checked for proper serial numbers and cross reference.
- We will sign off on something (to be determined) that will show 100% of the boxes have been verified for labeling and box count accuracy.

Billie R. Danley, General Plant Manager, in a Memorandum of Interview, dated November 3, 2006, advised that the safeguard they now have in place is to only run product being assembled for Japan on that (packaging) line when the load is being put together. They will also hand scan each box individually, and physically take a box count of the product prior to shipment.

According to the Swift Establishment 969 QSA Program for Export, Policies and Procedures, Current Revision October 31, 2006, page 23: *"On the days that age verified cattle are being slaughtered, the offal department will be able to save designated offal items at the start of shift. The number of cattle in the age verified lots will be communicated to the slaughter QA and production both over the radio and via drive cards. The start of the first non-age verified lot will be communicated in the same manner. The slaughter QA will follow the last head of the age verified cattle to the evisceration table on the slaughter floor. At that point, the slaughter QA will communicate to offal production and QA via radio that the last of the age verified cattle are at the viscera table. A cut off will occur of offal products designated for export to Japan at this point. Any remaining offal product downstairs not already segregated and identified at this point will be "downgraded" to regular production (Age Verified Offal Segregation Procedures)."*